

**製品名: ErbB-3 (リン酸化 Tyr1328) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04627**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	ERBB3
別名	ERBB3; HER3; Receptor tyrosine-protein kinase erbB-3; Proto-oncogene-like protein c-ErbB-3; Tyrosine kinase-type cell surface receptor HER3
遺伝子 ID	2065.0
SwissProt ID	P21860
免疫原	抗血清は、ヒト HER3 由来の Tyr1328 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 1293-1342

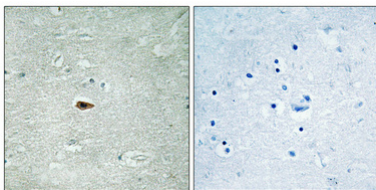
**背景**

この遺伝子は、受容体型チロシンキナーゼである上皮成長因子受容体 (EGFR) ファミリーのメンバーをコードしています。この膜結合タンパク質はニューレグリン結合ドメインを有していますが、活性キナーゼドメインは有していません。そのため、このリガンドに結合できますが、タンパク質リン酸化を介して細胞内にシグナルを伝達することはできません。しかし、キナーゼ活性を持つ他のEGF受容体ファミリーメンバーとヘテロ二量体を形成します。ヘテロ二量体化は、細胞増殖または分化につながる経路を活性化します。この遺伝子の増幅および/またはタンパク質の過剰発現は、前立腺がん、膀胱がん、乳がんなど、多くのがんにおいて報告されています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエーションが特徴付けられています。1つのアイソフォームは膜間領域を欠いており、細胞外に分泌されます。この形態は、m触媒活性を調節する働きをする： $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸$ 。疾患：ERBB3の欠陥は、致死性先天性拘縮症候群2型 (LCCS2) [MIM:607598]の原因である。これはイスラエル・ベドウィン多発性拘縮症候群A型とも呼ばれる。LCCS2は、脊髄前角の萎縮を伴う新生児致死性関節拘縮症の常染色体劣性神経性形態である。LCCS2症候群は、多発性関節拘縮、脊髄前角萎縮、および顕著に膨張した膀胱という特有の症状を特徴とする。この表現型は脊髄神経障害を示唆する。疾患：ヒト乳腺腫瘍の一部で過剰発現する。ドメイン：受容体の細胞質部分は、多くのシグナル伝達タンパク質のSH2またはSH3ドメインと相互作用する可能性がある。機能：ニューレグリンおよびNTAKに結合し、活性化される。PTM：リガンド結合によりチロシン残基のリン酸化が促進され、ホスファチジルイノシトール 3-キナーゼのp85サブユニットとの結合が促進される。類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。EGF受容体サブファミリー。類似性：1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット：他のERBB受容体とヘテロ二量体を形成する可能性あり。CSPG5、PA2G4、MUC1と相互作用する。組織特異性：上皮組織および脳。

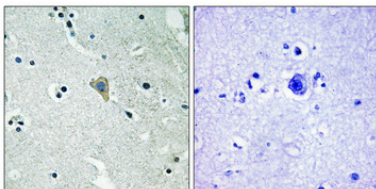
## 研究分野

ErbB\_HER;カルシウム;エンドサイトーシス;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晩)に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0)を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右)は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晩)に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0)を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右)は、免疫原ペプチドで前処理した。